

情報ライフサイクル・ガバナンス・ソリューション

UNPUBLISHED
IBM

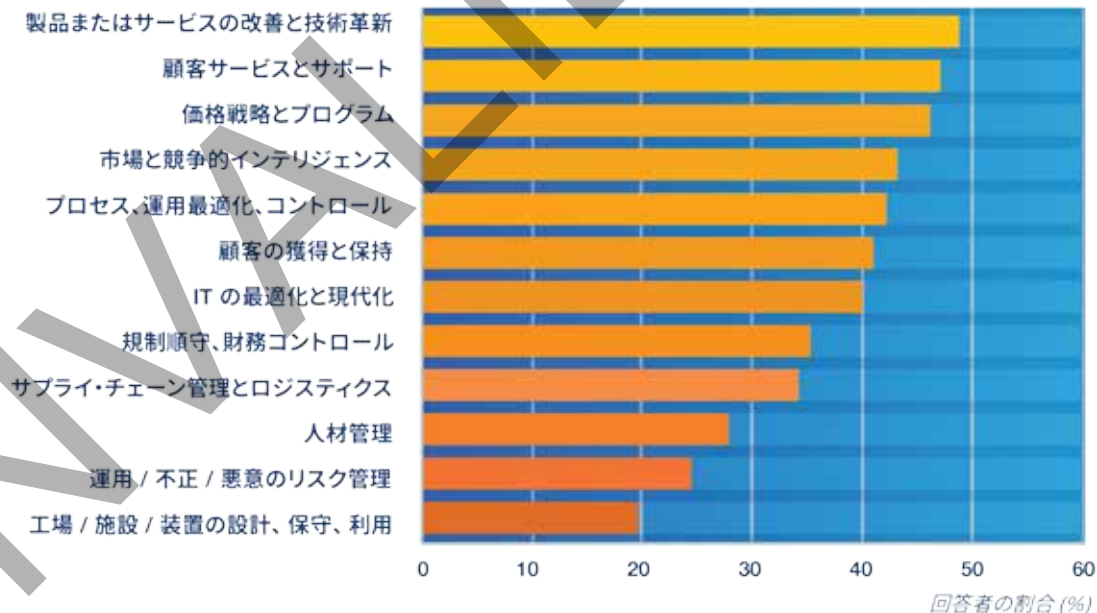
目次

- 3 はじめに: ビッグ・データのジレンマ—現代の企業が直面する問題
- 4 よりスマートなコンテンツ—非構造化データの処理
- 4 IBM 情報ライフサイクル・ガバナンス・ソリューション
- 9 IBM をお勧めする理由
 - データの評価と整理
 - 余分で古い瑣末なデータの発見、分類、是正、製品エディション
 - データの評価とクリーンアップの詳細
 - 法務
 - 発見の合理化とデータの絞り込み
 - 製品エディション
 - 法務の詳細
 - 記録と保持
 - 自動的で経済的で一貫した保持と記録管理
 - 製品エディション
 - 記録と保持の詳細
 - アーカイブ
 - 定義済みポリシーにしたがってデータを保管
 - 製品エディション
 - アーカイブの詳細
 - キュレーション
 - ビジネス価値による情報管理
 - 製品エディション
 - キュレーションの詳細
- 11 まとめ
- 13 参考資料/追加リンク

はじめに:ビッグ・データのジレンマ — 現代の企業が直面する問題

日々、爆発的な量で生み出されるデータによって、企業のまともな機能が脅かされつつあります。データ量は18～24カ月ごとに倍増しています¹。世界の情報の90%は過去わずか2年で生み出されたものです²。このようなテラバイト単位のデータには極秘情報、個人情報、法的審査の必要な情報も含まれます。データのライフサイクルを通じてデータを管理しようとする、企業は次のような多くの課題に直面します。

今後1～2年間に於いて、組織のビッグ・データおよびアナリティクス・イニシアティブの重要な推進要因になるの分野は、次のうちどれですか？



IDC Big Data and Analytics Maturity Survey, 2013年7月 © 2015 IBM Corporation

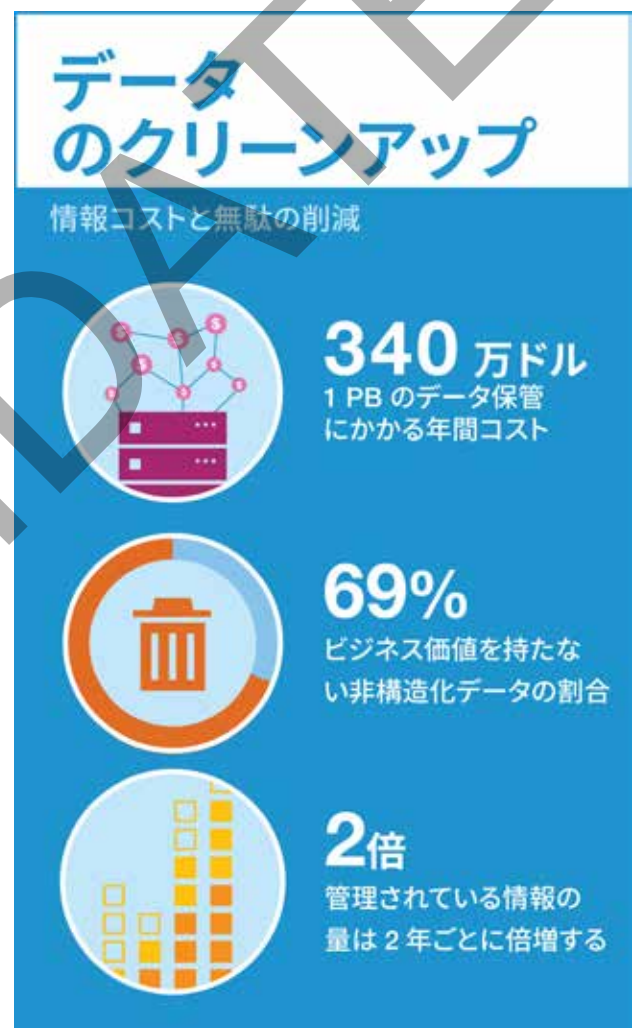
- データの保護 — システムにある個人機密データやクレジットカード情報、個人が特定できる情報を見つけて安全に保護すること、データ漏洩の防止または対応に最善を尽くすことが企業の大きな懸念です。
- コンプライアンスの実施 — 規制の遵守、国ごとのデータ規制、政府の定めたデータ保持ルール、司法上の規制によって、強力なガバナンスの実践が必要となっています。

- 訴訟対策としてのデータの準備 — 案件にどのデータを含める必要があるのか、そのデータがどこに存在しているのかの把握、管理者への通知、訴訟ホールドの発行、案件の完了確認は、エレガントな解決策を必要とする極めて複雑なプロセスです。
- データの保管と管理に伴うコストの削減 — 「ストレージは安い」は必ずしも正しい答えではありません。データをクラウドに移動することも答えではありません。どのストレージを選んでもガバナンスを避けて通ることはできません。さらに、求められている時期を超えてデータを維持することにはリスクが伴います。
- データから得られる価値の拡大と発見 — 収集し保管したデータをもとに革新的なプロジェクト、顧客のインサイト、アナリティクスを推進することが、ますます必要となっています。ただし古くから「何を求めるかは自ら投じたもの次第」と言われるように、企業は使用する一連の該当データが目的を最もよく全うするものであり、企業を正しい方向に導くものであると確信できる必要があります。

爆発的に増えるデータを管理する強力で自動化され拡張可能な手法は、情報ライフサイクル管理と呼ばれており、その必要性は明らかです。企業は所有するデータを力に変えることで、よりスマートに構築し、よりスマートに行動し、よりスマートな存在になることが求められ期待されています。この課題に対処し後れをとらないためには、企業には今日にでも、よりスマートなコンテンツが必要です。

よりスマートなコンテンツ — 非構造化データの処理

よりスマートなコンテンツとは、階層化データベースに企業が保管している構造化データだけでなく、通信、メール、業務コラボレーション・サイト、ソーシャル分野やモバイル分野など、企業活動のほぼあらゆる側面に存在する非構造化データも分析することを意味します。現在、非構造化データは組織の業務データの90%を占め、年率60%で増加すると予測されています³。企業が陥る可能性のある深刻で高くつく間違いは、所有しているデータを完全に把握していると信じ込んでしまうことです。インサイトと実際のビジネス価値を促進できるかもしれない大量のリソースが手付かずである可能性があります。逆に、リスクと訴訟のもとになるデータや、規制の対象となるデータである可能性もあります。



非構造化データはさまざまな形態をとり、多くの異なる場所に存在しています。少し例を挙げるだけでも、文書、メール、wiki、チャットルーム、ソーシャル・メディア、LinkedIn、Facebook、インスタント・メッセージなど、数百の形式があります。これらのデータは、オンプレミスとクラウドの両方で、コンテンツ管理システム、コラボレーション・サイト、ファイル共有、デスクトップ、携帯電話、タブレットなど、数十箇所に存在することができます。そして少なからぬ、どれに保持する価

値があり、どれが冗長で古臭く些末なものか、どれが企業をリスク、罰金、訴訟にさらしているかを誰も把握していません。溢れかえる量の情報を、価値をもたらすビジネス・コンテンツに変えるにはどうすればいいでしょうか。

IBM 情報ライフサイクル・ガバナンス・ソリューション

ソリューションの最初の部分は、慎重に練り上げられた情報ガバナンス戦略を使って実行可能なデータの把握、分析、管理を行うことです。IBM 情報ライフサイクル・ガバナンス (ILG) ソリューションはそのための戦略を提示します。このソリューションは (包括的ソリューションの一部として、または、最終的に規模を変更し連携できる個々の入り口として)、俊敏で、インテリジェントで、ライフサイクル全体にわたってデータを処理できます。ILG ソリューションは次の5つの主要分野を含みます。

- データの評価と整理
- 法務
- 記録と保持
- アーカイブ
- キュレーション

拡張性のある IBM のオープン・プラットフォーム、ILG ソリューションは、あらゆるガバナンスのニーズを満たすワンストップ・ショップです。当面必要なソリューションを購入して (法務、記録、データ評価など)、徐々にソリューションを追加して別のニーズに応えることができます。本質的に、IBM の ILG ソリューションが提供するののは、入り口として親しみやすいソリューションと、統合されたポートフォリオ内で連携してガバナンスの問題を解決する完全なプラットフォーム・ソリューションです。

IBM の包括的で統合された情報ライフサイクル・ガバナンス・ソリューションは次を実行するのに役立ちます。

- 情報ライフサイクル・ガバナンス (ILG) プログラムの目標を定義して、ビジネス上の利点を数値化します。
- ILG ツールとプロセスの詳細なロードマップを使って、法務、記録、業務、IT 部門のニーズをサポートします。
- 不要なデータを取り除き、情報の安全な処分を補助するトランparenシーを促進します。
- 情報資産から最大の価値を引き出し、厳しいコスト管理を維持し、ビジネス・リスクの大幅な軽減を支援します。

詳細については、次の Web サイトをご覧ください。
<http://www.ibm.com/information-lifecycle-governance>



IBM をお勧めする理由

信頼性と安定性で知られた IBM と提携することには、さまざまな利点があります。IBM は以下のような会社です。

- 深い専門知識とベスト・プラクティスを駆使してハイブリッド・ユース・ケース向けに業界をリードするサービスとサポートをお客様に提供します。
- 信頼できるクラス最高のベンダーであり、ガートナーのマジック・クアドラントでは概念先行型のリーダーとされました。
- Fortune 10 企業の 7 社を含む、世界中の 200 社で導入されています。
- 相当な数の特許を保有しています。
- 132 TB のデータを識別、収集、分析、分類して、関連性のある 200 GB のデータを生み出すことで、世界最大の訴訟件数をサポートしてきました。

IBM の情報ライフサイクル・ガバナンス・ソリューション

は、現在の企業が直面する 5 つの情報管理 (または情報ガバナンス) の問題に取り組むために開発されました。



データの評価と整理

多くの企業は自社が保有するデータのサイズと場所を把握していません。その結果、価値の高いデータを特定し、余分な古い情報を処分することが難しくなります。そして、ストレージ・コストと収集コストが上昇し、データ漏洩のリスクが高まります。

余分で古い瑣末なデータの発見、分類、是正

IBM データの評価と整理ソリューションは、余分で古い瑣末な (ROT) データをクリーンアップして情報経済を改善します。個人特定情報 (PII)、PCI DSS (クレジット・カード業界のセキュリティ基準)、HIPAA (医療保険の相互

運用性と説明責任に関する法律)、人事ポリシーに応じて規制されたデータを是正でき、高いビジネス価値を持つデータのセキュリティを高めることができます。データの評価とクリーンアップ・ソリューションは、データから派生する価値を高めつつ、その管理に伴うコストとリスクを減らすのに役立ちます。

製品エディション:

StoredIQ Suite: その場でデータを把握して分析し、該当するデータのサブセットを特定し、適切な企業ポリシーを適用するのに役立ちます。

StoredIQ Policy: 非構造化データ・ソース全体に情報ガバナンス・ポリシーを適用するのに役立ちます。

Content Collector for Email: ストレージ管理とコンプライアンス改善のために、メールをポリシー主導で収集しアーカイブします。

データの保持とクリーンアップの詳細: <http://www-03.ibm.com/software/products/en/legacy-data-cleanup>

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=X6CsmUv55Rg&feature=youtube>

デモ: Stored IQ Repository Cleanup and Compliance
<https://www.youtube.com/watch?v=FGO-mgbeCA4&rel=0>



法務

法務プロセスの複雑さと現在使われているポイント・ソリューション製品の普及により、eDiscovery 環境はあまりに複雑になっています。自社開発の IT システムと並んで異なるベンダーのソリューションを組み合わせると、プロセスの一部のステップが欠けたり、情報不足のまま意思決定がなされたり、手作業によるミスが生じたり、法務案件向けに作成されたデータ全般が信用できなくな

ったりします。訴訟対策として過剰にデータを集めると、弁護士が審査し文書を作成する下流工程のコストが高くなります。過剰な収集と複製は、電子情報の識別と収集における課題です。たとえば、多くのコーポレート案件はデータ収集プロセスの前に和解します。案件に関連付けられたデータに取り込むインサイトがない場合、案件の実際のメリットに関する情報がほとんど、またはまったくない状態で和解することになります。案件で収集プロセスが実施される場合でも、該当データを特定し、そのデータの重要性を理解するには、ほとんどの企業法務部門は収集後まで待たなくてはなりません。

eDiscovery の合理化とデータの絞り込み

IBM の ILG ソリューションはシンプルで包括的であり、法務チームは eDiscovery プロセスを合理化できます。プロセスの初期段階で企業データの優れたインサイトにより特定の案件に最も該当する情報のみを特定し対象とすることで、チームは eDiscovery 対応に関するコストと作業を減らし、非構造化データの量を減らすことができます。StoredIQ for Legal は、関係するデータのみを特定するのに役立ち、データの量を管理可能な該当するデータ・セットに減らすことができます。

この機能は訴訟弁護士が情報に基づいて和解か訴訟かを決定するのに役立ちます。StoredIQ for Legal は、案件がその段階まで進んだ場合、収集プロセスにも情報を伝えることによって、チームがどのデータを収集する必要があるかを決定するのを支援し、最も少ない法的に安全なデータ・セットを収集しようと試みます。StoredIQ for Legal を使うと、法務チームと IT チームは組織的に調整され、法的事項にどのデータが該当するかを調査し、大量のデータ・セットを強化して理解を深め、そのデータに基づいて適切に行動して、法的リスクを緩和することができます。eDiscovery コストを削減する力がチームにもたらされます。

製品エディション:

[Atlas eDiscovery Cost Forecasting and Management](#): 発見コストを管理可能にして、経費のずれを回避し、法的成果を改善します。

[Atlas eDiscovery Process Management](#): 法務ホールド、収集、監査のプロセスを自動化します。

[Atlas IT eDiscovery Process Management](#): IT スタッフと法務スタッフとの間で自動的に発見情報を伝達します。

[eDiscovery Analyzer](#): 案件の確認、検索、分析機能により電子発見のコストを大幅に削減します。

[eDiscovery Manager](#): 企業全体で複雑な案件をサポートする機能を備えます。

[StoredIQ for Legal](#): IBM の eDiscovery ソリューションは法務の利害関係者の eDiscovery プロセスを合理化し、それを IT 部門と調整して、データの知見を迅速に得て、適切な情報のみが収集されるようにします。

法務の詳細:

Web ページ: https://ibm.biz/StoredIQ_Legal

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=OwB4ZBqgKds>



記録と保持

デジタル情報の急激な増殖により記録管理の変革が必要になっています。急増する情報を收容し、規制を遵守し、訴訟を回避するために、現代の企業は非常に拡張性とセキュリティが高い記録管理ソリューションを必要としています。それは電子記録と物理記録の捕捉、公表、分類、保管、破棄ができなくてはなりません。

自動的で経済的で一貫した保持と記録管理

IBM Enterprise Records ソフトウェアは、企業ポリシーの定義と追跡を支援して、データ保持の規制義務とビジネス・ニーズを満たし、元の場所でデータを分類し、適切な行動をとり、記録を封印します。IBM Enterprise Records は、自動化、信頼性、コンプライアンスを組み合わせ、優れた記録管理を実現する包括的ソリューションです。このソリューションは、紙の記録と電子記録、構造化データと非構造化データを含めて、あらゆる種類のビジネス・コンテンツに対処します。

製品エディション:

[Enterprise Records](#): 経済的で一貫した保持と記録管理の自動化を実現します。

[Global Retention Policy and Schedule Management](#): ワークフローとアナリティクスが統合された単一の保持管理システムです。

[StoredIQ Policy](#): 非構造化データ・ソース全体に情報ガバナンス・ポリシーを適用するのに役立ちます。

[Records Manager](#): 業務アプリケーションによる電子記録サポートを可能にする記録管理エンジンです。

記録と保持の詳細:

Web ページ: <http://www-03.ibm.com/software/products/en/recorete>

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=166oJ9OVN-w>



アーカイブ

企業がコンテンツをアーカイブする最大の理由の1つは、eDiscovery 対応と規制順守です。IT 部門は、企業のあらゆる場所で起きているデータの急増に苦しめられています。データの検索、保持、整理が難しくなっており、ましてや、コンテンツの要求に迅速に回答し、変わり続けるグローバル市場の規制を順守することはさらに困難です。企業が保持するデータの大部分 — 推定 70% — はもはやビジネス価値を持っていませんが、データの所有者はだれか、実際に何が格納されているのか、法的に何を残す必要があるのか、絶対に破棄する必要があるのかといった質問に答えられないために、企業は積極的な一歩を踏み出せません。

定義済みポリシーにしたがってデータを保管

IBM Value-Based Archiving ソリューションは、大量のデータのアーカイブ・コストをそのデータに伴う価値にあわせて調整します。この製品では、定義したポリシーにしたがって、コンテンツの識別、分類、アーカイブ、管理、破棄が可能です。IBM Value-Based Archiving 製品は、無駄なデータのアーカイブをなくしてストレージ、インフラストラクチャー、eDiscovery のコストを減らし、ビジネス・リスクを緩和します。

製品エディション:

[CA Email Control for the Enterprise](#): メール管理機能によってメール監視とコンプライアンスを改善します。

[Content Classification](#): 文脈依存の分析方法を複数組み合わせ、コンテンツを自動的に分類し整理します。

コンテンツの高度な自動分類と整理のために:

[Content Collector for Email](#): ストレージ管理とコンプライアンス改善のために、メールをポリシー主導で収集しアーカイブします。

Content Collector for File Systems: コンプライアンスの向上と、ストレージ管理やサーバー集約のような IT プロジェクトのために、Windows、Novell、その他のファイル・システムからファイルを収集してアーカイブします。

Content Collector for Microsoft SharePoint: コンプライアンスの向上、長期的保持の改善、SharePoint パフォーマンスの最適化のために、Microsoft SharePoint を拡張して SharePoint のリスト型とライブラリ型をアーカイブする機能を追加します。

Content Collector for SAP Applications: SAP アプリケーション向けの文書とデータのアーカイブ機能です。

eDiscovery Manager: 承認された IT スタッフと法務スタッフが案件に該当するコンテンツの検索、選別、保持、エクスポートを実行できるようにして、経済的な発見プロセスを実現します。

アーカイブの詳細:

Web ページ: <http://www-03.ibm.com/software/products/en/value-based-archiving>



キュレーション

私たちは、トレンドの発見、新しいインサイトの獲得、収益の増加、競争力の確保、リスクの管理、将来の予測をビッグ・データに頼っています。しかし、どんなビッグ・データ分析プロジェクトの成果も、使用するデータの品質を超えることはできません。データの破棄と保持のバランスをとる、つまりは散在するデータをできる限り整頓することでインサイトを提供できる可能性のあるデータを最適化するには、企業情報を深く理解しておく必要があります。

ビジネス価値による情報管理

IBM キュレーション・ソリューションでは、ビジネス価値に応じて情報を発見、分類、管理することができます。また、該当する最新の信頼できるデータを抽出し、古くなったデータや、リスクがあり、ほとんど価値のないデータを分離することもできます。有益な最新データは、監査可能な管理しやすいフレームワークに取り込まれ、ビッグ・データ分析プロジェクトを成功に導きます。

IBM キュレーション・ソリューションを使うと、該当する信頼できるコンテンツを素早く特定して収集し、共同作業と反復作業によって、収集したデータを洗練することができます。また、実行した分析ごとに使用したデータを記録することもでき、これはガバナンスのレベルを高め、データを理解し分析する強力なソリューションとなります。この機能は、個人情報 (PII) や機密情報の編集またはクレンジングが必要か決定するのに役立ちます。

IBM キュレーション・ソリューションを使うと、非構造化情報の価値を最大化しつつ、活用する情報が完全に関連し信頼性があることを保証できます。また、不要な大量の情報を自動的に絶えず破棄することで情報の経済状況を改善します。これで、情報の経済状況の測定、モデル化、改善を行う、事実に基づくシステムを開発して、情報ストレージのコストを削減し、情報の価値を最適化し、ビジネス、法務、IT 部門の利害関係を適切に調整することができます。

製品エディション:

Disposal and Governance Management for IT: 安全にデータを破棄し、情報資産に法的義務を紐づけし、eDiscovery のコストと負担を削減するのに役立ちます。

Global Retention Policy and Schedule Management: ワークフローとアナリティクスが統合された単一の保持管理システムです。

StoredIQ Suite: その場でデータを把握して分析し、該当するデータのサブセットを特定し、適切な企業ポリシーを適用するのに役立ちます。

キュレーションの詳細:

動画: https://www.youtube.com/watch?v=ah_OQF2v04M&feature=youtu.be

導入事例: https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=dCCq00ScykU

デモ: <https://www.youtube.com/watch?v=3MrvAK1TWo&rel=0>

まとめ

データの爆発的増加は減速する傾向になく、この急増するデータの効果的管理は絶対に必要です。法令に従い、データを保護し、情報コストを削減しつつ、トレンドの発見、新しいインサイトの獲得、収益の増加、競争力の確保、リスクの管理、将来の計画を行うために、企業は効果的なデータ・ガバナンス計画を作成する必要があります。

IBM 情報ライフサイクル・ガバナンス・ソリューションによって、企業は、データの評価、法務と規制順守、記録と保持、アーカイブ、キュレーションという重大な情報管理分野の課題を克服する力を得ることができます。IBM データの評価とクリーンアップ・ソリューションは、余分で古く瑣末な (ROT) データをクリーンアップして情報経済を改善します。IBM の法務ソリューションは、シンプルですが包括的であり、法務チームは eDiscovery プロセスの合理化、訴訟への対応改善、規制の順守、さらにはモバイル労働者の規制順守を実行できます。IBM Enterprise Records and Retention ソリューションは、企業ポリシーの定義と追跡を可能にして、データ保持の規制義務とビジネス・ニーズを満たし、元の場所でデータを分類し、適切な行動をとり、記録を封印します。IBM Value-Based Archiving ソリューションは、ストレージ、インフラストラクチャー、eDiscovery のコストを減らし、ビジネス・リスクを下げるために、大量のデータのアーカイブ・コストをそのデータに関連する価値にあわせて調整します。IBM キュレーション・ソリューションは、情報の価値を最適化し、分析によって新しいインサイトを発見するために、ビジネス価値に応じた情報の発見、分類、管理を可能にします。

データに圧倒されるのではなく、IBM と協力して、全体的な情報ライフサイクル・ガバナンス・ソリューションを探求してください。データの爆発を味方に付け、IT、法務、記録、企業全体を含む企業内のすべての利害関係者に恩恵をもたらすのに役立ちます。

IBM にご連絡ください。情報ライフサイクル・ガバナンスへの第一歩を踏み出しましょう。

- 1 (IDC iView, Extracting Value from Chaos, Doc #1142, 2011 年 6 月)
- 2 2013 Science Daily <http://www.sciencedaily.com/releases/2013/05/130522085217.htm>
- 3 (IDC research)

UNVALIDATED



© Copyright IBM Corporation 2016

IBM Analytics
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19-21

Produced in Japan
2016 年 3 月

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

本資料の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用できるわけではありません。

本資料に記載の性能データは、特定の動作条件下で得られたものです。実際の結果は、異なる可能性があります。IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本資料の情報は「現状のまま」で提供され、明示的にも黙示的にも、商品性の保証、特定目的への適合性の明示的保証、違反行為がないことを含むいかなる保証を行うものでもありません。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は、法律ならびに該当する規制を順守する責任を負います。IBM は法的助言をすることはなく、IBM のサービスまたは製品によって、お客様が法律または規制を確実に順守できることを表明し保証するものではありません。



Please Recycle